

ベルリンスタートアップエコシステムレポート 2024年度 vol.2

# テクノロジーと創造性が融合するスタートアップハブ、 ベルリンの魅力とは

アジア・ベルリン・フォーラムGM、ラウシェンバーグ氏インタビュー



## Introduction

激動の歴史を経て、ヨーロッパ屈指のイノベーションハブへと変貌を遂げた都市、ベルリン。先進的なスタートアップエコシステムが育まれる背景には、分断と統一という特異な歴史が生み出した創造性と、多様性を受け入れる開放的な文化がある。この独特の環境が、革新的なアイデアの誕生と成長を促し、国際的な人材や投資を引き寄せている。

本レポートでは、ベルリンのスタートアップエコシステムに精通するマーテン・ラウシェンバーグ氏へのインタビューを通じて、ベルリンの魅力と可能性を掘り下げる。ベルリン州政府の外郭団体「アジア・ベルリン・フォーラム e.V.」のゼネラルマネージャーとして、欧州とア

---

ジアの橋渡し役を務めるラウシェンバーグ氏の洞察から、ベルリンがドイツのイノベーションの中心地として発展を続ける理由と、そこで成功を収めるための鍵を探る。

**ベルリンが世界的なスタートアップハブとして台頭した背景には、どのような歴史的・文化的要因があるのでしょうか？また、ベルリン特有のイノベーション文化について、お聞かせください。**

ベルリンの独自性は、産業革命にまで遡る歴史的根源を持っていると思います。『テクノ・クラフトマンシップ』とも呼ぶべき、技術的創造性とイノベーションの重層的な文化が、ベルリンのDNAに刻み込まれている、と言えるかも知れません。

19世紀後半、ベルリンはすでに「Elektropolis（電気の都）」と呼ばれるほど、電気工学や機械工学の中心地として名を馳せていました。シーメンスやAEGといった巨大企業が、ここベルリンで革新的な技術を生み出していたのです。コンピューティングとプログラミングの歴史においても、ベルリンは重要な役割を果たしてきました。この伝統は、東西分断時代を経て今日まで脈々と受け継がれています。

ベルリンのスタートアップシーンは、この長い歴史の延長線上にあります。AI、ブロックチェーン、バイオテクノロジーなど、最先端の分野で革新を起こす企業家たちは、この都市に根付いた『テクノ・クラフトマンシップ』の精神を受け継いでいるように私には思えます。

分断時代、ベルリンは特異な発展と都市開発を余儀なくされましたが、この逆境が創造性と革新性を育む土壌となりました。統一後は、低コストの生活と豊富な空きスペースが、世界中のアーティストやイノベーターを惹きつけました。こうして生まれた多様性に富んだ環境が、ベルリンをユニークな都市へと変貌させたのです。

さらに、再統一後の不動産資金とベンチャーキャピタルの流入が、ドットコムバブルと相まって、ベルリンのスタートアップエコシステムを大きく促進しました。ベルリンの国際性と英語が広く通用する環境が、世界各地から優秀な人材を惹きつけています。結果として、ベルリンは単なるスタートアップのハブを超えて、技術と文化が混ざり合い、新しいアイデアが生まれ育つ肥沃な土壌となっているのです。

---

テクノミュージックやアバンギャルドなクラブカルチャーが、この創造性の一端を象徴しています。しかし、それはベルリンのクリエイティブなエネルギーの表層に過ぎません。その根底には、テクノロジーとアートを融合させる深い文化的土壌があるのです。

## ヨーロッパの主要スタートアップハブと比較して、ベルリンにはどのような特徴がありますか？

ロンドンフィンテックとソフトウェアに強みがありますが、Brexitの影響でハードウェアのスタートアップは部品の調達や製品の輸出に新たな障壁が生じ、苦戦しています。パリは非常に中央集権的なエコシステムを持ち、フランス語が主流のビジネス環境です。フランス語に堪能で、体系的なアプローチを好む起業家には適しているでしょう。

ベルリンの強みは多岐にわたります。まず、多様な人材が集まり、英語が広く使われる国際的な環境です。これは、世界中の起業家にとって大きな魅力となっています。また、ベルリンはドイツ、オーストリア、スイスを含むDACHと呼ばれる広大なドイツ語圏経済との密接なつながりを持っています。つまりヨーロッパ最大の市場への玄関口としての機能も備えています。

ベルリンは企業の本社は多くありませんが、ドイツ産業のイノベーションハブとして機能しています。ドイツの主要企業からのイノベーションスカウトがベルリンに集まるため、スタートアップはここで多くの企業とつながることができます。これは時間と労力の大きな節約につながりますし、伝統的な有力企業とスタートアップの敏捷性が融合した、ユニークな環境が生まれています。

ベルリンのエコシステムは非常に多様で、ディープテック、AI、気候テックなど、さまざまな分野のクラスターが集積しています。資金面でも、ドイツのベンチャーキャピタルの約50%がベルリンに集中しており、資金調達の機会が豊富です。これらの特徴が相まって、グローバルなスタートアップにとって、ヨーロッパの他の都市と比較しても、ベルリンは極めて魅力的な拠点となっているのです。多様性、アクセシビリティ、そしてイノベーションの可能性が、ベルリンの独自の強みを形成しています。

---

## ベルリンのスタートアップエコシステムには、具体的にどのような支援プログラムや取り組みがあり、それらがスタートアップの成長にどのように貢献しているのでしょうか？

ベルリンには、スタートアップの各段階に対応した様々な支援プログラムがあります。初期段階のスタートアップには、アイデアを軌道に乗せるための初期資金を提供する「[ベルリン・スタートアップ奨学金\(Berliner Startup-Stipendium\)](#)」があります。次に「[コーチングボーナスプログラム\(Coaching BONUS\)](#)」があります。これはスタートアップが専門家の指導を受け、堅実なビジネスプランを練り上げる際の費用を補助する制度です。この支援により、起業家たちはアイデアを実現可能な事業へと磨き上げることができます。さらに「[GründungsBONUS](#)」という初期段階の資金調達に最適なマッチングファンドプログラムもあります。

しかし、成功には資金だけでなく、強固なコミュニティも欠かせません。ベルリンには、各産業に特化したイノベーションスペースが多数存在し、スタートアップ同士の交流や協力を促しています。

私が携わる「[Asia Berlin Forum e.V.](#)」も重要な役割を果たしています。これはベルリン州政府が支援する非営利団体で、ベルリンのスタートアップエコシステムとアジア市場を橋渡しする役割を担っています。定期的なイベントやネットワーキングの機会を通じて、両地域の起業家やイノベーターを結びつけています。スタートアップが躍進できる、包括的かつ支援的な環境を築くことが、私たちの目標です。

## 日本のスタートアップがベルリンに進出する際、どのような課題があるとお考えですか？

日本のスタートアップがベルリンで直面する主な課題は、意思決定のペースの違いでしょう。ドイツ企業の慎重な意思決定プロセスは、スピードを重視するスタートアップ文化と対照的です。これは日本企業とドイツ企業に共通する点かもしれませんね。両国の文化に根付くリスク回避の傾向も、スタートアップの迅速な行動様式と相容れないことがあります。さらに、信頼

---

関係やパートナーシップの構築には時間がかかります。他の市場以上の忍耐が必要となるでしょう。

しかし、これらの課題は決して乗り越えられないものではありません。むしろ、時間をかけて築いた関係は、より強固で長期的なパートナーシップにつながる可能性が高いからです。

成功の鍵は、現地のビジネス文化を深く理解し、スピードと慎重さのバランスを適切に取ることだと思います。この調和を見出せば、ベルリンの豊かなエコシステムで大きな成功を収める道が開けるのではないのでしょうか。

## Interviewee

**Marten Rauschenberg (マーテン・ラウシェンバーグ)**

**アジア・ベルリン・フォーラム e.V.、ゼネラルマネージャー (ベルリン)**



テクノロジー業界で20年以上のキャリアを持つベテラン起業家。アジアで13年間を過ごした後、2015年にベルリンに戻り、さらに2つのスタートアップを立ち上げた。現在はベルリン州政府の外郭団体で、アジアとベルリンのスタートアップ・エコシステムをつなぐイベント「AsiaBerlin Summit」を運営する組織「Asia Berlin Forum e.V.」のゼネラルマネージャーを務めている。ビジネスとテクノロジーの両方に精通するラウシェンバーグ氏は、豊富な専門知識とアジアで培った広範なネットワークを活かし、ベルリンとアジアのスタート

アップコミュニティを結ぶ架け橋として、両地域の連携強化に大きく貢献している。

LinkedIn: <https://www.linkedin.com/in/martenrauschenberg/>